

ブック

1990年の「EFA(Education for All)世界会議」以降、多くの途上国では教員政策における諸改革も進められてきている。

本書は、「途上国の教員政策」として、第一部では、東南アジア

やアフリカの事例研究と文部省等資料等を基に教員政策について教員養成制度や教育改革、教師教育のプログラム、教員スタン

ダード/コンピュータシールの策定や教員評価の導入等が論じられている。

例えば、カンボジアでは、教職の高度化として専門学校レベルから学士レ

ベルへの引き上げと教員養成大学が設立されたこと等、タイでは、研究に重きを置いた教員養成として、従来の4年課程から5年課程へと1年延長され、教職を目指す学生は、授業実践の改善に寄与するアクシジョン・リサーチに取り組むことが求められるようになったこと等、インドでは初中等教育の力リキュラ

教員政策と国際協力

未来を拓く教育をすべての子どもに



興津妙子、川口純 編著

明石書店 3456円

☎03-5818-1171

教員政策と国際協力

未来を拓く教育をすべての子どもに

ムを教員中心・教科書中心から学習者中心に転換することを目指し、教師は学習を促す「ファシリテーター」としての役割が求められることや、「学習者が」どのように学び、どのように知識を再構築するかといった学習のプロセス評価を重視する、「継続的・統合的評価」が奨励されていること等が述べられている。

また、第二部では、「教員政策に対する国際協力のアプローチ」として、ユネスコによる協力やユニセフの教育に対するアプローチ等、様々な機関による教員支援等について述べられている。

編著者は、教育政策のグローバル化が途上国の教員に不可避の影響を及ぼす中、その国や地域の文脈における「良い教師」を規定する「コンディンション」とは何で、それがどのように育まれるべきなのか等、改めて問い直す必要性があることを述べている。これらの課題は、日本の次期学習指導要領に対応した教員養成政策にも示唆を与えていると思われる。(愛知教育大学教授・高橋美由紀)